

2018（平成30）年度 東北福祉大学通信教育部 スクーリング・アンケート自由記述（抜粋）

紙面の関係でごく一部のみしか掲載できませんでした。

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

（目次）	共通基礎科目・その他の選択科目	p. 1
	社会福祉士指定科目	p. 5
	精神保健福祉士指定科目	p. 9
	心理系専門科目	p. 12
	幼保特例講座科目	p. 16
	オンデマンド・スクーリング開講科目	p. 17

共通基礎科目・その他の選択科目

●禅のころ

- ・ 1コマ1コマ禅を行うことで、体で覚えることができた。毎回、禅に入るときのころ、気持ちが変わり、更に深く学びたいと思った。

●科学的な見方・考え方

- ・ 今回受講したことで、レポートの作成について学ぶことができました。筋道を立て、自分の意見を出したうえで、資料を活用し、レポート作成にはげみたいと思います。2日間いろいろな見方考え方を学び、考えさせられることがほとんどでした。資料を探し、どの資料を使う、その資料をどう活用するかについては、受講してよかったです。

●基礎演習

- ・ 序論、本論、結論、という書き方はわかっているけど、いざレポートにしようと思うと難しく感じていました。レジュメにすれば書きやすい！展開しやすい！というのがわかってよかったです。先生がいつも笑顔でよかったです。

●情報処理の基礎

- ・ 関数について何度か習ったことはあったが、実際に使用する場面が少ないため、忘れてしまう。普段から使用できると良いと思った。私は1ヶ月ごとに体重や体脂肪率、骨密度を測定しているので、まずはそれを入力してみることから始め、グラフ化してみたいと思った。

●データ分析とプレゼンテーション技法

- ・ある程度のパソコンの知識がないと苦勞することを実感しました。パソコンで、労力を少なくしデータ化することにより、より良い情報を得ることができると思いました。再度ゆっくり復習したいと思います。

●統計情報を見る眼

- ・統計と聞いただけで苦手意識の分野でしたが、正しく物事を判断したり、客観的な考え方、見方が少し身についた気がします。感覚を大切にしてきた自分が、少し見方を変えて理論的に論ずることができるようになることは、違う自分に会えそうです。

●法の基礎

- ・付章での、判例研究での事例はとても興味深いものでした。朝日訴訟の、生活保護法に基づき支給を受け、その後実兄がみづかり送金を受けその金額を差し引いたことに対して不服申立てをして、その後申立てを却下されてしまう流れのなかで、憲法25条の定めるところの「最低限度の生活」の捉え方（プログラム規定説）という意味を理解できたことは、憲法という姿をみた気がしました。

●人間と教育

- ・教育の歴史について、古代ギリシャ時代のものが、現代の私たちの学びの基盤やルーツであったことを知り、とても興味深いものでした。海外とはちがった日本独自の教育方針もあり、時代が変わる中で教育も同じように変わっていくのだと改めて実感しました。

●教育の歴史と思想

- ・教育の歴史について、今まで知ろうとしていなかった、戦後から自分の年代に至るまでの学習要領の変化について知ることができてよかったと感じた。教育はグローバル化の現代で、どのように変化をとげていくのか関心をもちました。

●人権と福祉

- ・グループでの話し合いで、多様な考えを知ることができた。福祉の定義と人権の根拠となる考えを改めて知る(理解する)機会となりました。

●社会福祉学入門

- ・テキストからは読み取れない歴史的経緯や、2018年現在の状況事例から、1つ1つの言葉の意味を理解することができた。原論等から受けていたため、わからない部分がスッキリ解けた。現在、児童福祉領域で仕事をしているが、その重要性和支援の難しさを改めて理解できた。

●歴史を読み解く

- ・ほかの科目で「論理的に考える」「科学的根拠に基づき…」ということをお授けいただきましたが、それが歴史にもあてはまるということを知り、目かウロコが落ちました。例えば、今まで卑弥呼と魏を別々に考えてきましたが、関係性を教えていただき、なるほどなど感心しました。

●生命の科学

- ・生命が誕生、維持されるには、とても多くの神秘的なことを経て、体の中で複雑なことが全てうまくいくことが不可欠であることに驚きました。

●睡眠改善学

- ・睡眠が重要だと感じていても、何をすれば良いのかわからず、自分では改善できずにいたので、とても興味のある内容でした。さまざまなデータをもとにした、睡眠に関する知識は、とてもわかりやすかったです。根拠のある、睡眠の重要性と快眠のためにできることを具体的に知ることができたので、自分の生活にいかしていきたいと思います。

●スポーツの心理学

- ・なかなか聞けない一流アスリートの裏話をたくさん聞くことができおもしろかったです。仕事や私生活でも活かせるようなポジティブシンキング、コミュニケーションスキルなど、気をつけていきたいです。

●発達障害者の理解と支援

- ・福祉が「まちづくり」にとっても重要だと認識を強くもつことができた。住民の意識を変えることは大変むずかしいことであるが、人口減少がますます進むこれからは、待たなしであり、足踏みではなく何か行動しなくてはと思った。

●認知症介護論

- ・ユーモアのある先生でお話がおもしろく、講義時間があっという間に感じられました。先生のお話の中で、認知症の方のことは「自分が忘れても周りのひとが覚えてくれるからアイデンティティが保てる。自分はひとりじゃない。」が心に残りました。認知症の方の不安な気持ちに寄り添って力になりたいと思いました。

●知的障害者福祉論

- ・先生の熱意に引き込まれていく授業でした。知的障害をもつ方の生の声を聞かせて頂けたらもっと学びが深まったと思います。これからは、障害をもつ方とかかわりを積極的にもとようと考えました。

●発達障害者の理解と支援

- ・ 家族に ADHD スペクトラムがおりますので、非常に身近な問題として捉えることができました。また、黄先生の実体験に基づいた資料は大変参考になり、発達障害を知らない方も理解しやすいものであったと思います。

●NPO論

- ・ 自分が現在 NPO 法人で働いているのでどういったものか(他の法人との違いなど)興味があり今回受講しました。NPO というものが社会的使命を持っていることや 20 項目にも及ぶ活動があることを初めて知りました。ボランティアの精神は気持ちだと思うので、今回学んだことと職場の理念に基づき活動していければと思います。

●福祉リスクマネジメント

- ・ 普段私たちの身のまわりで起こり得る危険と、各々の職場（施設）において起きた事故の事例について、先生の豊富で幅広い実例と、法制度を交えながらわかりやすく説明をしていただいたので、今後の生活及び職場（日常生活）でのリスクマネジメントとしておおいに役立てていこうと思う。「危険回避」の方法についてますます興味が湧いてきました。

●福祉用具と生活支援

- ・ 今までの介護の仕事では、その場しのぎのやりかたや、合っていない車椅子を使用していたということが実感できました。一人ひとりに対してきちんとした検証をし、環境を変えれば、生活は変わるということに、感銘を受けました。職場の人たちに認知してもらい、実践していくことは難しいかもしれませんが、学んだことを活かして少しずつやっていけたらと思います。

●医療・福祉経済論

- ・ 難しい内容を知識がない人用に簡潔に資料にまとめてくださり、またそれを使って丁寧に教えていただき、わかりやすかったです。経済の基礎がわかってニュースや新聞も、より深く内容がわかるなあと思いました。

●特講・社会福祉学 19（コミュニティ・ソーシャルワーク I）

- ・ 地域づくりを支援することは、難しいと思っていた。住民と一緒に考え、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにしていくときに、強みに着目していくことの大切さをグループワークを通して学びました。

社会福祉士指定科目

●社会福祉原論（職業指導も含む）

- ・物事は「全体の輪郭と肝要な細部」について、見て考えることが重要であると学びました。仕事でも、往々にして表面だけ、体裁だけに陥ることがあります。学ぶうえで、どういう視点で、何が問題で、何を考え、何をする必要があるので、深みのある捉えかたができるよう、常にそういう習慣を持ちながら今後の学習につなげていきたい。

●地域福祉論

- ・先生の実体験や事例を交えての講義であり分かりやすかった。地域福祉といえば、行政やサービス提供側が資源の開発をしていくのではなく、地域に住んでいる住民などが主体となり、専門職が相互に協力しあっていくことが大切と感じた。

●社会保障論

- ・社会保障に関する法や制度について、私の専門とする介護保険制度以外で、気付かなかった点、知らなかった点がたくさんあり、日常的にも役立つ制度を多く教えていただいたことで、ますます興味深く、関心のもてるスクーリングでした。

●公的扶助論

- ・生活保護受給に対し、制度やその背景、歴史等について学ぶことができた。自分がとても勉強不足だなと思いこれから学びを深めていきたいと思った。

●福祉法学

- ・成年後見制度について苦手意識をもっていました。わかりやすい説明で、基本事項を理解することができよかったです。先生のエピソードも交えながら楽しく講義を聴くことができました。

●福祉社会学

- ・社会学という学問がどういうものなのかわからなかったですが、講義を通して自分が生きている世界は社会学に基づく実践の分野なんだと理解できました。これからの時代がどういうものになるのかアンテナを張りながら仕事をしていきたいと思います。

●福祉心理学

- ・この学問は、特別な人ではなく万人に活用できるものであること、心理学は奥が深く難しい面もあるという思いと、人と関わるうえでこの知識がとても有効であるという思いに至った。さらに理解を深めていきたい。

●医学一般

- ・幅広い専門的知識を細部にわたり、学ぶことができました。日常生活の生活習慣が疾患につながることや、予防につながることを再認識し、学べたと思います。

●福祉行財政と福祉計画／福祉計画法

- ・テキストだけでは把握しにくい現在の統計結果や予算等について、資料をもとに説明してくださり、わかりやすかったです。また、国試に向けたポイントについても話されていたため、ポイントを押さえ身に付けていきたいと思いました。

●障害者福祉論

- ・先生ご自身の体験や、さまざまな場面で先生が感じられた思いを聞くことができ、学ぶことが多かったです。この科目に対する関心が高まったので、これからも興味をもって社会の動きに注目していきたいと思っています。

●保健医療サービス論

- ・さまざまな医療制度の詳細を知ることができてよかった。診療報酬制度について、退院が早いほど料金が高くなるのは一概に悪いとは言えないが、入院が必要な患者が早く退院させられてしまう可能性を考えると、将来ソーシャルワーカーを目指す者として複雑な問題になると思った。

●社会福祉援助技術総論

- ・社会福祉士の役割はとても広範囲で奥が深いと思った。世の中は少子高齢化、格差社会で、他国籍の移民も増え、問題を抱えている人は増えていくと思う。どのように解決していくか、大変な仕事であるがとても必要とされる仕事だと思った。専門性の高い分野なので常に学ぶ姿勢が大切だと思った。

●社会福祉援助技術論A

- ・社会福祉士のあるべき姿、役割について理解が深まった。先生と同じようにはできないが、存在が目標となり、意欲につながる。今回の受講は、自分も社会の一助になりたい（社福士としても人間としても）と思えるものだった。

●社会福祉援助技術論B

- ・「貧困」の問題と「子ども」を結びつけて考えたことがなかったので、視野が広がるきっかけになった。教科書には載っていない現場の生の声を知ることができるので、より深い時間になった。

●社会調査の基礎／社会福祉援助技術論Ⅱ

- ・ただ調査をすればいいのではなく、きちんとした目的とやり方を持って行わないと信憑性に欠けるし、裏づけも必要というのがわかりました。実践するにはまだまだですが、今の高齢者福祉の仕事にも活かしていければいいと思いました。奥が深く、講師の方の熱意も感じました。

●福祉経営論／福祉施設管理論

- ・利用者と職員、経営者の立場それぞれから、さまざまな考え方や組織構造から成り立っているのが複雑で、何を優先させればよいのか考えさせられた。

●高齢者福祉論

- ・資料の内容や言葉使いなどがシンプルでわかりやすく、主体的に考えさせられる内容の授業でした。高齢者、障がい者、児童など区別することも制度的に必要だと思いますが、それ以上に、それらすら区別しない考え方こそ、これからの福祉に必要であると思いました。

●介護概論

- ・介護の仕事に従事し、何年も経ったなかで改めて勉強したいと思い、今回受講しました。丁寧な解説と、先生の体験談をときどき笑いも交えながら楽しく学習ができました。利用者の目線など、考えさせられることが多かったので、今後にかかしていければと思います。

●児童（・家庭）福祉論

- ・虐待や貧困、子どもたちが抱えるさまざまな問題を詳しく知ることができ、とても勉強になりました。問題の範囲が広く、おおまかなことでしか考えていない部分もありましたが、「子どもにとってどうか？」という視点でみたときに、社会全体で取り組むことが大切であることがよくわかり、今後もそういった視点をもって子どもに関する問題を考えていきたいと思いました。

●更生保護制度論

- ・スクーリング1日目の夜、テレビドラマで仮釈放中の少年が再び少年院に戻る様子を再現していました。彼らのまわりの人間の一人として、とても深く考えながら観ました。そして、もっと理解すべきことがあることに気がきました。

●就労支援サービス論

- ・支援を行ったから終わりではなく、新たなネットワークをつくるという、さらに次のことまで考えることが重要だと思った。

●社会福祉援助技術演習A・I

- ・グループワークの際、さまざまな職種、年齢、出身地の方と意見を出し合うことで、実践的に自己覚知することができたと感じた。また、言葉一つにしても、他者がどの立場からみているのかを知ることで、説明をととても丁寧にしなければと考えることができた。

●社会福祉援助技術演習B・II

- ・グループワークで支援内容を考えてみて、日頃自分が作成している計画（支援内容）の傾向、くせを客観的に感じとることができる良い機会となった。より、幅広い視点をもって取り組んでいく必要性を感じ取ることができた。

●社会福祉援助技術演習C

- ・グループワークをすることにより専門知識や技術のスキルがあがって、いろいろな考えが聞けてとても参考になりました。また、実践の場で活躍しているメンバーが多く、すぐにでも現場で活用できる意見の場となり、とても充実していた。

●社会福祉援助技術実習指導A

- ・実習にあたっての心構えや事前学習について学べたことがよかったです。実習で何を求めるのか、そのためにどうしなければいけないのか、よく考え、実習までの間深めていきたいと思います。

●社会福祉援助技術実習指導B-1＋演習C-1

- ・グループワークによってさまざまな年代、職業の方との意見や考えをすることができました。深い学びになり、実習に向けての心構えができました。

●社福実習指導B-2

- ・他の学生のみなさんの今後の展開を聞くことで、自分のこれからの目標とすり合わせることができました。

●社会福祉援助技術実習指導B-3＋演習C-2

- ・演習は少人数だったため、じっくりと時間をかけて事例検討することができた。また、実習報告では、どのような気持ちでみなさんが実習に臨んでいたのかお話を聞くことができて非常に有意義な時間だった。

●特講・社会福祉学17 (ACT)

- ・ACTの活動に関心があつて受講しました。動画で実際の活動のようすを見せて頂くことで具体的な活動のイメージを知ることができ、複数の職種でひとりの利用者を支援する意義を学ぶことができました。ACTの活動が日本でもスタンダードになっていくと良いと思います。

精神保健福祉士指定科目

●精神保健学

- ・精神医療の側面で患者やクライアントを捉えたときに、今まで勉強してきたカウンセリング知識や技術だけでは対応しきれない倫理や権利などの問題があると思った。

●精神医学

- ・精神医学と私たちの生活が、こんなにも身近なものであると改めて考えさせられた。PSWをめざすにおいて、スペシャリストでありジェネラリストの質も求められる時代であるという言葉は、強く印象に残っている。基礎的な知識もきちんと理解して日々の業務にあたらうと思いました。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ／精神保健福祉援助技術総論

- ・バイステイクの7原則がクライアントの気持ちを汲んだものだと知り、とてもよく理解できた。かかわっていくクライアントの気持ち、状態、心の傷を十分に考えた上でのコミュニケーションを行っていかなければならないと思った。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

- ・意図的なコミュニケーションを何気ない会話から行うことの難しさを改めて感じた。クライアントとの何気ない関わり方にもPSWとしての専門性が求められるものであると勉強になった。

●精神保健福祉援助技術各論

- ・ご自身のPSWとしての経験から要点をまとめた講義は、専門職としてのあり方を教わりました。グループワークを通して顔の見える関係づくりができ、実践を通して技術を身につけることもできましたので、この経験をふまえて少しでも地域で活躍するPSWを目指したいと思います。

●精神保健福祉の理論／精神保健福祉論Ⅰ

- ・精神保健福祉士としての役割、必要性が理解できた。今後の日本での精神保健福祉士の活動方針にも着眼し、考えていきたいと思った。

●精神科リハビリテーション学

- ・精神科リハビリテーションの歴史は、精神科病院の入院治療から脱施設化、地域リハビリテーションと移行していったことがわかった。我が国の脱施設化は後れている。改革ビジョンにより国民の意識改革と共生社会を目指し、偏見のない社会になってほしい。

●精神保健福祉のサービス／精神保健福祉論Ⅱ

- ・国の法制度や、行政の政策などがわかってきました。細かく難しいことなので、このスクーリングで学んだことを基にして、これからも勉強していかなくてはいけないと思いました。

●精神保健福祉の制度／精神保健福祉論Ⅲ

- ・成年後見制度及び更生保護の制度についてとても理解が深まった。特に法律の分野から各制度についての説明はとてもわかりやすく、途中の雑談はおもしろかった。初めてのスクーリングでしたが、とてもよかったです。

●精神障害者の生活支援システム

- ・精神障害者の過去の悲惨な状況や時代背景のもと、いろいろな法律が成立し改正されていく過程をわかりやすく説明いただきました。これからは「行きづらさ」ではなく「行きやすさ」にかわっていかねばと思います。

●精神保健福祉援助演習A

- ・相談援助のグループワークは初めてなので、大変勉強になりました。面談をするにあたり、いろいろな技術と人の考えを受け入れ妥協するラインをつくる、話すときの距離感を学んでいかなければならないと実感しました。

●精神保健福祉援助演習B

- ・私自身、児童福祉に興味があるため、先生の経験や事例を聞いて、より関心が深まりました。ネガティブな考えをポジティブに変えられる、話す力や想像力、視点など考えさせられることがたくさんありました。相手の立場に立つことは日頃意識していますが、改めて気持ちを入れ替えようと思いました。

●**精神保健福祉援助演習B-1+実習指導A-1**

- ・実習前の現場体験、アクシデントを想定したシミュレーションを通して、いづれか実習中の出来事に対処できる心構えができたと思います。仲間づくりも深めることができたので、辛いことや悩みが出てきても相談する機会ももてると思います。とても実になる演習でした。

●**精神保健福祉援助演習B-2+実習指導A-2**

- ・ほかの方が実習で何を学んだか、グループワークで知ることができて、自分の振り返りが明確にできた。先生が経験を話してくださったので、病院実習に向けての心の準備や学びのポイントを押さえることができた。

●**精神保健福祉援助演習C**

- ・事例を通して危機介入の支援について、自分がこれまで経験してきたことでは最悪の結果につながることもあり得ると知り、もっと医療と連携をとっていく必要があることに気付かされました。今は相談の現場から離れてしまいましたが、この先にいかしていけるようにしたいと思いました。

●**精神保健福祉援助演習C-1+実習指導B-1**

- ・SST、デイケアのグループミーティング等、実践を通して学ぶことがたくさんあった。この学びを是非実習につなげていきたい。

●**精神保健福祉援助演習C-2+実習指導B-2**

- ・支援場面のシミュレーションをし、実習や業務で行っていることの振り返りができ、今の自分の支援のやり方をチェックすることができてよかった。また、SSTを実習で行えなかった分、今回のスクーリングで学べたことで今後の支援で取り入れたいと感じた。

●**精神保健福祉援助実習（事後指導）**

- ・実践に沿った事例のアセスメントや、面接場面での目標を学ぶことができ、自分もっている知識、理解をアウトプットする訓練にもつながりました。

心理系専門科目

●福祉心理学

- ・バラエティに富んだ、福祉心理学を用いてひもといた事例は、とても興味をそそられました。映画やドラマなど多くの作品から、様々な人間心理を読みとっていらっしやって興味深かった。

●心理学概論A・B／心理学概論

- ・今までフロイトのイド、意識、無意識がよくわからなかったのですが、今回の講義でもよくわかりました。ほかの理論も具体的な例をあげて説明してくださったので、すっと理解できた気がしています。

●心理学実験I A・B／心理学実験I

- ・なぜ心理学実験を行うのか、その意義がよく理解できた。4つの実験レポートが大変でしたが勉強になった。疑問に思うことを確かめることができる方法として、今後実践してみたい。

●心理学実験II

- ・実際に実験を行ったことで、実験の手法や態度を学ぶことができた。特に、実際に実験を体験するという事は、大学でないとできない貴重な経験だったと感じた。問題について原因を考え、そこに何らかの手を加えることでどう変化するのかを考え検証するという態度は、日常生活における問題などにも応用していきたいと思う。

●心理学研究法I

- ・実際に研究していくときに、「自分の知りたいこと」＝仮説をはっきりさせておく必要があることを考えさせられた。これから本を読んだとき、その仮説と方法の関係にも目をむけていけそうだ。「研究」に対する視野が広がったように感じる。

●心理学研究法II

- ・データを読み解くのは元々苦手な方で、焦りが出た場面も多々あった。活用する機会や実践がないと身につかないものだと思うので、講義だけでおわらないようにするにはどうしたらいいかを考えたいと思う。

●社会心理学 社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）／社会心理学

- ・教員の方の熱意をとて感じた講義だった。「理解してほしい」「何かを学びとって欲しい」という思いを感じた気がした。

●家族心理学 社会・集団・家族心理学B（家族心理学）／家族心理学

- ・短期療法の基礎を理解することができた。また、家族療法の解決に役立つことを明確にする願いを会話の中心とするという点が、これまでの心理療法とは違うような気がしました。学んでとてもよかったです。

●産業・組織心理学

- ・会社だけでなく組織全般、集団生活そのものに当てはまる理論が取りあげられており、日常生活に役立つと思いました。エラー発生要因については考えさせられました。

●人間関係論

- ・排斥のリスクについて理解が深まったのがよかった。類似性と集団斉一性が、排斥や独立をもたらしてしまうということは、知らず知らずのうちに自分も誰かを排斥しているのだと思った。排斥された人が自己をとらえられず、自暴自棄になってしまう過程がわかって納得できた。拒絶感受性が強い人のこともわかり、とても勉強になりました。

●発達心理学／生涯発達心理学

- ・赤ちゃんが発達していく過程でどのように経験や失敗をくり返し、成長していくのかが今回の授業でわかりました。また、赤ちゃんでも失っていく能力があるという事実にとっても驚かされました。

●児童青年心理学

- ・アイデンティティの確立に年齢は関係ないと思った。「一度達成したら終わりではない」と先生もおっしゃったが、確かに、その体験が私にとっては土台になっていることに気付いた。先生の講義をきいていて、自分の過去の経験と突然結びついた。

●老年心理学A・B／老年心理学

- ・認知症の方へのBPSDへの対応について、表面的でその場しのぎの方法では根本的解決にはならず、介護者からの視点でしか考えていないということに気付かされました。今後、中核症状まで含めて考えるようにしていきたい。

●教育・学校心理学A（教育心理学）／教育心理学

- ・教育とは答えを教えて覚えさせることではないという先生の言葉は、主体的な学びを体得してもらうための基本なのであろうと思った。ヴィゴツキーとピアジェの発達観の違いは何がどう違うのかがよく理解でき、学びが深まった。

●障害児の心理

- ・障がいがある方への発達の支援に「希望を失わずにいる」という考え方が、障がいを越えた基本的な人としての存在価値を改めて認識させられました。障がいがあってもできる力で可能性を伸ばす考え方に支援をしていく係わり方と、人として生きる自分自身のあり方を改めて見直すきっかけが与えられたと思います。

●感情・人格心理学／人格心理学

- ・概説でしか知らなかったことの細かい背景や経緯を紹介していただき興味をもって理解を深めることができました。「人間とは何か」いろいろな人が一生懸命追究して心理学が発展してきたことに改めて感銘を受けました。同時に、AIに求める役割が変わった途端、脳科学への研究費が削られたというお話を聞いてがっかりしてしまいました。臨床的にはすごく大事なことなのでもっと研究して欲しいです。

●ライフサイクルと福祉心理学

- ・エリクソンの発達段階の深いところを学ぶことができた。それぞれの課題を獲得できない人は(自分も含めて)、どういう人生を送るのだろうか。そのことをエリクソンはどう考えているのか疑問でしたが、氷が解けるようによく知ることができました。これから家族支援を続けていく上で、よい勉強ができました。

●臨床心理学

- ・心理学を、学ぶようになって「無意識」に対して考えることが多くなったが、今回の講義で改めて、そして今まで以上に深く自分の無意識と向かう時間となった。心とは何か。自分の心がどう動いているのか「自分を知ること」が大切であること、という言葉が3日間私の頭の中でリフレインしています。人を理解するための道具として自分を知ることがこれからも続けていきたいと思います。

●心理療法

- ・さまざまな心理療法の方法は、心理学の歴史と共に発展しているのだと考えさせられました。フロイト・ユング・アドラー・ロジャーズ、それぞれについてもう少し勉強したいと思いました。

●司法・犯罪心理学

- ・犯罪が起きる要因や背景を知ることが大切なことを知った。ニュース等をみて、なんでこんな痛ましい事件がおきるのかと思っていたが、このスクーリングを受講し、捉え方、見方が変化した。自分にも何かできるのではないかと思います。

●カウセリングⅠ

- ・「傾聴」のところでは、ただ相手の話を聞くのではなく、相手を受容し言葉から相手の内面を理解しながら聴くというところが、今後仕事でもいかしていけそうだと思います。

●カウセリングⅡ

- ・問題行動は、認知の歪みによって起きるということがわかり、行動の方にのみ着眼してしまいそうだが、先行刺激について考えることに気が付いた。行動を変える認知へのアプローチについても考える機会を与えられて良かった。

●カウセリング演習Ⅰ

- ・傾聴の基本やいくつかの技法について、テキストを読んだり、これまで受講したカウセリング関係のスクーリング内容を振り返ったりしてみたが、実際のグループワークを通して改めてクライアントと向き合うことの難しさを感じた。また、「同感」と「共感」の違いについて、頭では理解していてもなかなか難しいのだと痛感した。

●カウセリング演習Ⅱ

- ・ロールプレイングを通してカウセリングの基本技術を体験した。知識としては知っていたが、実践してみて、基本的な技術こそ奥が深く難しいということを実感した。また、相手の気持ちに寄り添い、気持ちを引き出すコツのようなものを自分なりに得られたような気がした。

●知覚・認知心理学／認知心理学

- ・人間の視覚や嗅覚などがこんなにも人間の心理に影響があると知り、ますます興味を持った。私は広告関係の仕事をしているので、この2日間で学んだ内容を広告のデザインを考える上での参考にしたり、クライアントへの提案などに十分応用できると思った。

●学習・言語心理学／学習心理学

- ・「疑ってかかること」単純な私には教訓です。また、動物によって見える色が違ったり、視覚に違いがあることにとても興味をもちました。紫外線が見える生き物がいることに驚きました。

●特講・福祉心理学4（スクールカウセリング）

- ・子ども、親（保護者）、先生を支援する立場として、各々とのコミュニケーションの取り方や、目の向け方、読み取り方を学ぶことができました。
学校（先生）とのチーム構築の難しさを聞いてよかったです。

●特講・福祉心理学5（自分さがしの心理学）

- ・自分が見て感じたこと、ほかの人が感じたこととは、必ずしも同じではないということ
を学んだ。また対人関係でも、第一印象で思い込みをしてはいけないな、と感じました。
自己のイメージだけでわかったような気になってしまう考え方のクセみたなものに注意
していきたい。

●特講・福祉心理学9（コミュニティ心理学）

- ・1対1のカウンセリングではなく、個人と家族、家族と社会といった、相互に作用しあ
うコミュニティの要点に働きかけることで全体が変わっていく仕組みがとても面白いと
感じた。費用がかさみがちな心理療法にとって風穴をあける可能性を感じた。

●特講・福祉心理学17（認知行動療法）

- ・2日間のスクーリングで理解し得ることではないとは思っていましたが、数々のワーク
や実例を持って入口くらいの理解は深められたように思います。また、カウンセリング
を行うためには深い洞察力、想像力も必要であり、その域に達する日が来るのかと遠い
道のりのようにも感じられた。しかし、始めなければ何も変わらず、少しでも役に立て
る日が来るよう努力していきたい。

幼保特例講座科目

●乳児保育

- ・グループワークを通してほかの方の考えも聞くことができとてもよかったです。また、
さまざまな動画や映像を見ることで、学べるところがたくさんありました。自分が子育て
をした時の知識とは変わっていることもあり、学ぶことができとても良かったです。
今、日本の教育にとって、とても重要な時期でもあるのだと感じました。

オンデマンド・スクーリング開講科目

●ボランティア論

- ・ボランティアコーディネーターの重要性と重責の理解を深められました。また、地域の人々の連携や協力の大切さを改めて考えさせられました。

●統計情報を見る眼

- ・統計の見せ方でだまされていることが多くあることを知りました。ニュース等、結構身近にあります。また、その反面、疑い深い私の見る眼や感じることも、決して間違っていないことにも気づきました。これからは、学んだことを活かし統計と向き合います

●法の基礎（日本国憲法を含む）

- ・今までは法律に興味がなく、難しいものだと思い込んでいました。しかし、本にある理解しづらい文章を具体的に例えて頂いたので、とても身近なものと感じるようになりました。

●社会福祉学入門

- ・内容でよかった点は、社会福祉の全体がざっと見られたということです。それによって、社会福祉とは何かということのある程度理解できたように思います。考えさせられたところは、高齢者福祉について、どうして先進国が様々な施策を行っている中で、日本が視野を広げたり想像力をもっと使って対応してこられなかったかということと、児童虐待や子供の貧困です。

●社会福祉原論（職業指導を含む）

- ・田中先生の豊富な文献に基づく講義内容に心動かされました。「利用者本位の本当の意味」「相手の立場とは」「学ぶとは」深く考えさせられました。ますます、学ぶことへの意欲がまし、己がかわることが大切なことに気づかされました。資格取得にもまして、もっと学びたいと思うようになりました。ありがとうございました。

●地域福祉論

- ・地域福祉の推進について先進的な取り組みをさらに知りたいと感じた。また、自分の地域を良くしていくために何が必要か、自分には何ができるか考えながら生活していきたいと考えた。

●社会保障論

- ・保険料は何に回っているのか。どれくらい必要なのか、財源はどうして賄っていくべきか。ニュースも漠然と流していたが、税金の使い道を通り過ぎるのではなく理解していく必要がある。とても興味関心があった。

●公的扶助論

- ・生活保護の捕捉率の低さに驚いたが、日本の貧困対策がうまく機能してないということだと思った。また、経済の状況・雇用の状況等も大きく左右することから、そのような変化にさらに注視して自分に何ができるのか考えていきたいと思った。

●福祉法学

- ・法律に関することや、後見制度ということについて、難しい内容ではあったが、とてもわかりやすく学ぶことができた。講義の中で、様々な事例を用いてくださったり、理解できるように説明をしてくださったり、要点を何度も繰り返し教えてくださったり、難しい内容の項目ですが、頭の中がとても整理でき、大変充実した時間の中で講義を拝聴することができました。ありがとうございました。

●福祉心理学

- ・認知症高齢者の問題行動について福祉関係従事者として表面的にしかみていなかったことに気づかされました。どのような状態になってもその人個人の人格を尊重しながら接していくことが大切だと思いました。もっと理解を深めていきたいと思います。

●人体の構造と機能及び疾病／医学一般

- ・心と体は繋がっていて、一体だということを改めて認識することができた。人間の体のしくみをしっかりと押さえておかなければならないと痛感した。

●福祉行財政と福祉計画／福祉計画法

- ・政策と福祉の動きの連動が、数値としてしっかりと見てとれる方法を教えて頂きました。数値から読み取れる問題をさらに深掘していくためには、個々の状況や仕組みをまだ学んでいかなければなりません、数値で現れる現象にはなんらかの原因があるのだという視点が大変興味深く勉強になりました。

●障害者福祉論

- ・優生思想・社会防衛思想がまだ根強く残っていることを強く感じた。これが偏見や除外などに結び付いているので、どのような働きかけが必要なのか、今後もいろいろな場面で考えたい。

●保健医療サービス論

- ・医療のサービスは隣接分野として以前から興味はあったものの、診療報酬や加算の話ばかりなのであろうと思っていたところがあったが、今回の講義で幅広い話題に触れることができ興味も広がった。他の専門職に関する正しい理解なくしては連携もなしえないと反省した。

●社会福祉援助技術総論

- ・今回、受講して社会福祉士に求められる役割はとても幅広くなっているのだと感じました。社会情勢の影響を受け支援が変化するのを感じ、歴史的背景とともに時代の変化を敏感に察知することが必要であると感じました。先生が話されていた、「サービスを利用する人たちのために私たちは知識や技術を身につける」という言葉がとても印象に残りました。

●社会福祉援助技術論 A

- ・「福祉が人を殺すとき」という視点やソーシャルワークを行っていく中で、あなたは「幸せになりたい」？「幸せにならない」？と問いかけは、感がせさせられました。自分の中で思っていたことは、自分が幸せと思えなければ、相手に対しても幸せになって欲しいという思いやりは、持てないのではないかと考えていたからである。しかし、講義で事例を聞く中で、果たしてそれが正しいのだろうかと問かけさせられました。また相手の立場に立っての視点の難しさがそこにあるのだと感じました。

●社会福祉援助技術論 B

- ・ソーシャルワークの最前線の生の講義に衝撃の連続でした。女性や子供の貧困、性や虐待の問題。心の傷や社会の闇の深さに、たじろいでしまうほどでしたが、こうして現実社会の一端に触れた事で、自分の中で何かが確実に変わったと感じています。通信教育学部入学時には、「とにかく国家資格取得が主目標。勤務しながら単位取得、試験対策以上は考えない。」つもりでおりました。「社会福祉士取得すれば、現所属の法人内での勤務に役立つ」と。単にいち法人のいち職員としての埒外に出ようとしていなかった自分を恥じる思いです。ソーシャルワーカーは、一生、どこでもどんな場面でもソーシャルワーカーであるべきであると考えました。

●社会調査の基礎／社会福祉援助技術論 II

- ・相談援助を感情論などで語ってはいけない。客観性は非常に必要だということを教えていただいた。社会調査がこれほど面白いとは思わなかった！

●福祉経営論／福祉施設管理論

- ・今まで福祉についての学習は多く行ってきたが、福祉を経営という側面から考えたことはなかったため、知っている内容でも、とても面白く感じた。

●高齢者福祉論

- ・親の今後について、そして自分自身の老後についても改めて考えさせられた。高齢者への対応を日々しているが就業という分野に限られているため、今後はその背景にも思いを馳せた支援をしていきたいと痛切に感じた。

●介護概論

- ・介護、認知症、ターミナルケアなど初めて学ぶことばかりで、今後の人生の生き方について、深く考えさせられ、とて示唆に富む内容でした。後藤先生の利用者に寄り添った考え方には、共感できる点が多々ありました。ありがとうございました。

●更生保護制度論

- ・高齢犯罪者が増加傾向にあり、刑務所が介護施設化していると聞いて、これは大変なことだと思った。居場所が無く福祉につながっていない障害者や高齢者に対し、国としてどのように取り組んでいくべきか、自分には何ができるのかと考えさせられた。

●就労支援サービス論

- ・就労支援は、自立支援の一部であるという視点にハッと思わされた。就労支援に関わることだけ講義として取り上げてほしいと感じていたが、そういう思考自体に就労しか考えていない自分がいることに気づかされることになった。

●精神保健福祉の制度／精神保健福祉論Ⅲ

- ・行政で、たらい回しにならない、ワンストップサービスに興味を持った。とても良い、利用する側に優しい制度だと思う。役所は、たらい回しになる傾向があり、ただでさえ、疲労しているのに、たらい回しでさらに、疲労困憊し、制度が受けられない人がいることは、残念なことです。私の職場でもたまにそのような気の毒な人を見かけます。

●発達障害者の地域支援

- ・発達障害者が社会に出てからの生き方について考えさせられた。発達障害者が生きやすい社会は、発達障害でない人にとっても生きやすい社会になると思うのでどうすればそういう社会になるのかを考えていきたい。

●家族法

- ・被虐待児の救済について、法的視点の他に福祉的視点もあることを教わり、何ともいえない感慨深さを感じました。

また、刑事告訴の社会内処遇について、施設内処遇との判断のあり方、具体的な内容とその効果、さらに社会的処遇となった場合の子どもの気持ちについて非常に関心を持ちました。

●心理学概論 A・B／心理学概論

- ・先生の「たとえ」が身近な「たとえ」でとても分かりやすく理解することができた。文字だけでは理解できなかった「フロイトの発達論」等が理解できた。

また「誰のための心理的支援かを冷静に考える」という言葉が、まったくそのとおりだよなあ・・・と考えさせられました。

●心理学研究法 I

- ・観察法、面接法は普段の仕事に早速考え方を活かしたいと思います

●社会・集団・家族心理学 A／社会心理学

- ・集団による社会的手抜き。他者と共同で作業を行うと成果が低下してしまう。これは振り返ると職場で多々起きている事象だということに気が付き、そこに視点を合わせれば解決できることがたくさんあるのではと思った。とても興味をおぼえた。

●人間関係論

- ・何より人間関係の面白さ、興味深さを感じました。感覚的には理解できていることを、学問的に学べたことで理解が深まり、納得できたことも多かったです。特に拒絶感受性の高い人の考え方と対応、コミュニケーションに大切な推論のあやまりについては、身近な問題でもありとても勉強になりました。

●老年心理学 A・B／老年心理学

- ・高齢期の変化に対する自身の受け止め方の整理や、人生終盤に向けての変化、そして死をどう受け止め抗うか、受け入れるか。そして、周囲の者も併せてサポートしていくことが、高齢者自身への良いサポートにもつながっていくことと理解できた。けっして、高齢期だけではなく、ほかの年代であっても、中途障害や重篤な疾患によっても似た過程を進むのではないかと思った。

●ライフサイクルと福祉心理学

- ・みんなそれぞれのライフサイクルを持っていて、どのようにすれば自分や家族、周りの人たちの QOL を高めていけるのか、先生のお話を聞いて改めて考えさせられました。お話もずっと入っていくものばかりで、あっという間に時間が過ぎていきました。心理学はやはり面白いと感じた科目でした。ありがとうございました。

●心理的アセスメント I / 心理アセスメント

- ・アセスメントに必要な知識の神経症・境界例・精神病の違いがとてもよく解りました。そして、それぞれの行動や発言の特徴を知ることができました。

●学習・言語心理学 / 学習心理学

- ・なにげなく行っている行動や記憶についての知識を学ぶことができました。具体的な説明でわかりやすく、とても興味深く抗議を受けることができました。

●環境心理学

- ・安全性において身近に体験している事を話題にしてくれたことは非常に理解を深め、また自身の課題へととなりました。

●障害児の心理

- ・木村教授の受講は、生涯発達心理学について 2 回目であるが、子供は発達する存在である、発達とは未来のこと、だから、子供の未来を信じなさい。という教えは、いつでも心に響いて、普段の学習の励みになっているし、それにも増して、日々の生活の糧となる教えである。